

令和5年4月吉日

各位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
交流企画部会長 柿沼太郎

国際島嶼教育研究センター第228回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第228回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

記

日時：令和5年4月24日（月）16時30分～18時
会場：総合教育研究棟5階 国際島嶼教育研究センター会議室
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24）
中継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階）
WEB：Zoom
参加費：無料（通信費は参加者負担）

奄美群島の宗教文化と神社の関係について

町泰樹（鹿児島高専一般教育科）

【要旨】

奄美群島は、琉球にルーツを持つノロ（女性神役）による村落祭祀やユタのシャーマニズムといった在地の宗教文化を有する地域として知られている。こうした在地の宗教文化は、明治期以降、廃仏毀釈や外来宗教の導入によって衰退してきた。ただし、在地の宗教文化と外来宗教との関係は、対立的なものだけではなく融和的なものもある。とりわけ神社は、廃仏毀釈の際には在地の宗教文化を抑圧する存在として立ち現れる一方で、ノロたちの祭場でもあった神社や在地の英雄譚から創建された神社が存在するなど、在地の宗教文化の受け皿としても機能してきた。発表者は、近現代における奄美群島の宗教文化の変容に関心を持ち、出身地である与論島の葬制の変容や、民俗信仰と神社の関係について研究を行ってきた。本発表では、発表者のこれまでの研究を概略的にたどりながら、奄美群島の宗教文化を理解するために神社に着目する意義を確認する。その上で、奄美群島における神社や、その管理を担っている人々の語りから、在地の宗教文化と神社との関係について考えていきたい。

【対面式でのご参加（要登録）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて4月20日（木）までにお知らせください。

お名前（必須）：

お電話番号（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メールアドレス：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて4月20日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：

メールアドレス（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

【ご連絡先】

対面式（申込期限：4月20日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：大塚）

奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：財部）

オンライン（Zoom）（申込期限：4月20日（木））

yotsuka@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：大塚）